

豪華3大協奏曲 ニューイヤーコンサート *New Year Concert*



Nakamura Megumi



Matsuda Lina



Shimizu Kazune

©Akira Muto

©Mana Miki



ヘンデル：ハープ協奏曲 変ロ長調 op.4-6

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64

チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 op.23

Tokyo 21C Philharmonic

中村 愛 (ハープ) 松田理奈 (ヴァイオリン) 清水和音 (ピアノ)

上野正博 (指揮) 東京21世紀管弦楽団 (管弦楽)

2022年1月23日(日) 14:00開演(13:15開場)

茅ヶ崎市民文化会館 大ホール



Ueno Masahiro

チケット料金(全席指定) S:6500円 A:5000円

チケット発売日:2021年11月10日(水) 一般発売開始

チケット
取扱

茅ヶ崎市民文化会館 0467-85-1123 (9:00~22:00・販売初日は窓口販売のみ)

茅ヶ崎市楽友協会 0467-82-3744 長谷川楽器本店 0467-85-1725 川上書店茅ヶ崎ラスカ店 0467-87-3826

チケットぴあ <http://pia.jp/> (Pコード:206-615) イープラス <http://eplus.jp>

お問合せ:茅ヶ崎市楽友協会 0467-82-3744 茅ヶ崎市民文化会館 0467-85-1123

主催:茅ヶ崎市楽友協会 / MIYAZAWA & Co. 共催:公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

New Year Concert

新年を祝い、豪華ソリストが集うコンサート。多岐に亘る活動で注目を集める若手ハープの中村愛、14歳でデビュー以来数々のコンクールを制し、常に第一線で活躍するヴァイオリン・松田理奈、完璧なまでの技巧と豊かな音楽性でデビュー40周年を迎えた日本を代表するピアニスト・清水和音の3名が、それぞれの楽器を代表する協奏曲を披露します。ハープの巧みさと可憐さに心奪われる世界初のハープ協奏曲「ヘンデル・ハープ協奏曲」、ベートーヴェン、ブラームスと並び三大ヴァイオリン協奏曲と称され、ドイツ・ロマン派を代表する名作「メンデルスゾーン・ヴァイオリン協奏曲」、そして誰もが知る傑作「チャイコフスキー・ピアノ協奏曲第1番」の3曲が一度に聴ける機会は滅多にありません！ 茅ヶ崎出身の指揮者・上野正博と、創設3年を迎え発展を続ける東京21世紀管弦楽団とともに贈る新春特別公演です。



中村 愛 (ハープ)

Nakamura Megumi (Harp)

ソリストとして精力的な演奏活動を展開し、仙台クラシックフェスティバルをはじめとする主要音楽祭に定期的に客演。シューマン、フォーレ、ヴォルフ、ラフマニノフなどのロマン派歌曲、合唱曲、室内楽曲のハープ版編曲、また埋もれたハープ作品や知られざる名曲の発掘・研究をライフワークとし、各地で実演により紹介している。レコーディング活動も活発で、これまでにキング

インターナショナルからソロ・アルバム「風と愛」「クリスマス・ファンタジー」他をリリース。その他、文筆、講義、メディアへの出演など、活動は多岐にわたる。音楽、絵画、文学、西洋史の学際的アプローチにより、多角的に自身の芸術理念を広く発信している。オフィシャルHP: <https://www.megumi-nakamura.com/>



松田理奈 (ヴァイオリン)

Matsuda Lina (Violin)

2001年第10回日本モーツァルト音楽コンクール第1位。2002年にはトッパンホールで「16才のイザイ弾き」というテーマでソロリサイタル開催。2004年、第73回日本音楽コンクール第1位、2007年にはサラサーテ国際コンクールにてディプロマ入賞。これまで国内の主要オーケストラに加え、ハンガリー

国立フィル、ヤナーチェク・フィル、スーク室内オーケストラ、ベトナム響など数々の楽団や著名指揮者と共演。2006年ビクターより『ドルチェ・リナ』、2008年に『カルメン』、2010年には『ラヴェル・ライブ』をリリース。イザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全曲集は、「レコード芸術」特選盤に選出された。そして、2018年5月にはブラームスとフランクのソナタを収録した5枚目のアルバムをリリースした。オフィシャルホームページ <http://linamatsuda.com>



清水和音 (ピアノ)

Shimizu Kazune (Piano)

完璧なまでの高い技巧と美しい弱音、豊かな音楽性を兼ね備えたピアニスト。ジュネーヴ音楽院にて、ルイ・ヒルトブラン氏に師事。1981年、弱冠20歳で、パリのロン＝ティボー国際コンクール・ピアノ部門優勝、あわせてリサイタル賞を受賞した。これまでに、国内外の数々の著名オーケストラ・指揮者と共演し、広く活躍している。室内楽の分野でも活躍し、共演者から厚い信頼

を得ている。これまでにソニーミュージックやオクタヴィア・レコードなどから多数のCDをリリースし、各誌で絶賛されている。ショパン、ベートーヴェン、ラフマニノフなどを中心に幅広いレパートリーを誇り、日本を代表するピアニストとして活躍中。桐朋学園大学・大学院 教授。



上野正博 (指揮)

Ueno Masahiro (Commander)

神奈川県生まれ。東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。同大学院音楽研究科指揮専攻修了。'94年、東京国際音楽コンクール・指揮部門にて「入選」。'96年、ベルリン芸術大学に留学。その後、「ベルリン・ドイツ・オペラ」の指揮研究員として研鑽を重ねる。'98年、ミトロプーロス国際指揮者コンクールに

最高位(1位なし2位)入賞を果たし、併せて「ミトロプーロス・ゴールドメダル」を授与される。今までに、東京都響、読売日響、東京フィル、東京響、東京シティ、新日本フィル、神奈川フィル、群馬響、名古屋フィル、京都市響、広島響、札幌響、九州響、関西フィル等を指揮し、好評を得てきた。また、ドイツの名匠G.アルブレヒトに直接指名される等、オペラスタッフとしても経験を積み、自らも、多くのオペラを指揮している。海外では、2000年に国立ワルシャワ・フィル定期公演、ウィーン室内管のオーストリア・ツアーを指揮してヨーロッパ・デビュー。地元紙にも「的確な棒さばき」と評価された。'06年には、ラボラトリウム国際現代音楽祭(ワルシャワ)に招聘された。昨年2月には、テレビ朝日「関ジャム完全燃SHOW」に出演。活動の幅を広げている。現在、東京藝術大学大学院、洗足学園音楽大学大学院及びフェリス女学院大学講師。



東京21世紀管弦楽団 (管弦楽)

Tokyo 21C Philharmonic

音楽を通して、多くの人たちと手を携え、今までの固定観念にとらわれない新しい時代の「楽しいオーケストラ」を目指して、演奏活動を進めていくオーケストラ。これまでに2019年オスカー新人賞を受賞し

たテノールのステファン・ポップの日本公演、オペラ界のビッグ・スター、テノールのファン・ディエゴ・フローレスの日本公演に出演し、好評を博した。浮ヶ谷孝夫(ブランデンブルク国立管弦楽団フランクフルトで首席客演指揮者)を音楽監督に迎え、2020年度は東京芸術劇場でベートーヴェンやブラームスといった重厚なドイツ音楽で定期演奏会を行い好評を博した。このほかバレエ、ポップスにも出演するなど活動の場を広げている。